

神橋

朱色の弧を描くこの橋は、この場所が日光の霊域への入り口であることを示しています。伝説によると、勝道上人（735 年-817 年）は日光へ到達する直前、大谷川の激流を前に立ち往生を余儀なくされたといいます。そこで上人が祈ると、どこからか深沙大王を名乗る守護神が現れ、橋を作って上人を向こう岸へと渡らせました。そのような逸話から、神橋は聖地として尊ばれています。現在の橋は 1904 年に再建されたものです。秋には川沿いの紅葉が色づき、神橋との見事なコントラストを見せてくれます。